

実践のまとめ（第6学年 国語科）

佐渡市立河崎小学校 教諭 五百川 眞実

1 研究テーマ

課題解決に必要な情報を収集・活用する能力の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年告示）では、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」を目標としている。また、現代の情報化社会においては、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりする力が大切である。一方、中央教育審議会答申においては、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と指摘されている。

自学級の児童は、自分の考えを他者と比べたり再検討したりすることが得意であり、楽しんで行うことができる。その一方で、児童は多くの情報の中から必要な情報を取り出して考えることが苦手である。授業者としても、児童が国語を学ぶよさや楽しさを感じられるような手立てを講じることができていないと感じている。

(2) 研究テーマに迫るために

① 教科書だけでなく日常生活と結び付けられるようにする

国語を学ぶよさは、学ぶことで、生きていく力をつけたり力がついた実感をもてるようになったりすることである。そのため、自分ごととして捉えられるような課題を設定する。例えば、「書く」の単元では、ただ感想や意見を書くのではなく、発信する相手を決めて自分の考えを発表したり、自分の考えたことをもとにイベント等を企画したりするなど、「書く」ことの先を見据えた単元構成と課題を意識する。なお、課題は常に児童とともに考え、設定することとし、自由進度学習も取り入れていきたい。

② 読む力を付ける

自学級の児童は、読書が好きな児童とほとんど読まない児童に二分される。全員が長い文章を難なく読めるとは言い難い。そのために、思考ツールの活用を意識させる。4月に物語単元を学習した際、「クラゲチャート」を使って登場人物の気持ちを読み取った。児童は「教科書に書いてあることを何個か繋ぎ合わせると、登場人物の気持ちがもっとよくわかった」と、クラゲチャートを活用して教材を読み解く楽しさを得ていた。児童が読む楽しさを得られるように、思考ツールを提示して、使えるように指導したい。

(3) 研究テーマに関わる評価

① 自らの回答に対して、理由をもって説明したり、思考ツールを活用するなどして根拠を示したりする児童が増える。

② 単元振り返りアンケートの「話し合うことで、情報が整理されたり、自分の課題の解決につながったりしたか」について、肯定的評価が80%以上になる。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう（国語 六 光村図書出版）

教材：「『鳥獣戯画』を読む」「発見、日本文化のみりよく」

(2) 単元（題材）の目標

- ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。【知識及び技能（１）ク】
- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等Ｃ（１）ウ】
- ・ 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。【思考力、判断力、表現力等Ｂ（１）ア】
- ・ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（（１）ク）	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（Ｂ（１）ア）	①粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全10時間、本時7／10時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	・ 学習の見通しをもつ。 ・ 佐渡の文化を紹介するというゴールを見据えて学習計画を立てる。	◎学習計画を立てよう。	進んで学習計画を立て、学習の見通しをもって文章を読もうとしている。 【発言・観察】
2 (4)	・ 絵と文章を照らし合わせながら読み、事実、感想、意見を区別して文章の構成を捉える。 ・ 筆者の鳥獣戯画（絵、絵巻物）に対する評価を捉える。 ・ 筆者の文章の書き方の工夫を見付ける。	◎文章の構成を捉えよう。 ◎筆者の鳥獣戯画についての評価をとらえよう。 ◎自分の考えを読者に伝えるための筆者の工夫はなんだろう。	<u>知・技</u> 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。【記述・発言】 <u>思・判・表①</u> 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 【記述・発言】
3 (4) 本時	・ 佐渡の文化について、何を・誰に・どのように伝えるかを決め、学習の見通しを立てる。 ・ 伝える事柄について、情報を集め、整理する。	◎何を・誰に・どのように伝えるかを決めよう。 ◎必要な情報を集めて整理しよう。	<u>知・技</u> 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。【記述・発言】 <u>思・判・表②</u> 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くこ

	- 文章の構成や表現の工夫を考える。 - 佐渡の文化を伝える文章を書く。	◎読み手や聞き手に伝わるように、構成や表現の工夫を考えよう。 ◎読み手や聞き手に伝わるように、文章を書こう。	とを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。 【記述・発言】 態度 粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。【記述・発言】
4 (1)	- 書いた文章を発表する。 - 学習を振り返る。	◎発表したり友達の発表を聞いたりして、学習を振り返ろう。	積極的に単元全体を振り返り、学んだことを今後にかそうとしている。【記述・発言】

4 単元と児童

(1) 単元について

「『鳥獣戯画』を読む」は、数々のアニメーション作品を手がけてきた筆者が「漫画の祖・アニメの祖」ともいわれる「鳥獣戯画」への愛おしさを語る説明文である。光村図書「国語六」では、児童は筆者のものの見方や考え方、表現の工夫を捉え、それらを活用しながら日本文化のよさを伝える文章を書くという単元構成になっている。しかし、今まで関心を向けてこなかった日本文化のよさを感じて文章にするというのは、いささか難しい。そのため、自学級では、「筆者の工夫をとらえて読み、佐渡の文化を紹介する文章を書こう」という言語活動を設定する。ゴールを「佐渡の文化の紹介」とすることで、児童は意欲をもって教材を読み取ることができると考えた。

(2) 児童の実態

5月に「時計の時間と心の時間」で説明的文章を学習した。文章全体を理解して自分の考えをもったり、筆者の論の進め方を参考にして自分の意見文を書いたりすることはできたが、図表に関係のある文を探したり、筆者の意見と感想を見分けたりすることが難しかった。

6月の「デジタル機器とわたしたち」では、構成を考えて提案する文章を書く学習をした。モデル文を参考に、「デジタル機器を活用して佐渡の未来をよりよいものにする」という自分の意見を述べることがよくできていた。

以上のことから、児童は、自分の意見をもったり考えたことを文に表したりする力はあると言える。一方、情報が複数提示されている際に図表と文章を結び付けて考えたり、自分が必要とする情報を見付けて文に表したりする力が弱いことが分かる。

自学級の児童は昨年度からSDGsを学習しており、昨年度は海外と佐渡市の暮らしを比較したり、首都圏の子どもたちとオンライン交流したりしながら、文化継承の必要性について考えてきた。先日は佐渡市役所世界遺産推進課と連携して、文化・伝統の継承にあたる「18個目のSDGs」を考えた。そのような活動を通して、児童は文化の継承は必要なものであるという思いをもっている。そのため、「佐渡の文化・伝統を多くの人たちに伝えよう」というゴールは、児童が意欲をもって取り組める単元構成になると考えられる。対象となる人が観光客か住民か、また、佐渡を知らない人なのか、年齢などについても考え、伝える相手に合わせた情報収集能力を得られることを望む。

5 本時の展開 (令和6年10月30日実施)

(1) ねらい

「佐渡の文化・伝統を多くの人たちに伝えよう」というゴールのもと、伝える相手や内容に応じて、より効果的に相手に伝えるための情報を収集・取捨選択する方法を考えることができる。

(2) 展開の構想

前時には、佐渡の文化について、何を・誰に・どのように伝えるかを決める。早く決めた児童から、情報を集める活動を始める。

本時では、前時に決めたことをもとに、情報を集める。同時に、伝えるものや伝える相手を意識しながらより効果的に伝わる情報の取捨選択を行う。伝えたいものや伝えたい相手が同じ児童同士はもちろん、伝えたいものや伝えたい相手が違う児童同士も交流できるような展開にしていく。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
10	○前時の振り返りと本時の学習内容の提示 ○教師の作成したチラシを見て考える	T: この学習のゴールは。 C: 佐渡の文化や伝統を多くの人に伝える。 T: 今日は何ができそうかな。 C: 伝えるために必要な情報を集める。選ぶ。 T: 試しに、チラシを作ってみたから見てくれる？ C: これは子どもは読めないよ。 C: 伝える相手を考えなきゃ。 ◎伝えたい人に伝わるように、情報を集めて選ぼう。	○相手意識のない、伝わりにくいチラシを提示する。ズレを感じさせる。
25	○全児童が「何を」「誰に」伝えたいか把握する ○情報を取捨選択した根拠を明確にする	T: 前回、何を・誰に・どのように伝えるかを決めたね。みんなの情報集め方や選び方も参考にしよう。 C: これは詳しい情報が載っているからいいサイトだ。 C: ここに書いてあることは全部載せたほうがいいかな？ C: この文章はわかりにくいから、書き直そうよ。 T: どうしてこの部分だけにしたの？ C: だって、お年寄りに伝えたいのに、いろいろ書いてあると読めな	○教室内を動いて学習してよいことを伝える。 ○教師は教室内を回り、手が止まっている児童がいた場合、「○○チームを見ておいで」などと声をかける。 □伝える相手を意識しながら情報を集めたり取捨選択したりしているか。 【発言・観察】 ○児童の動きが少なかった場合、時間が半分くらいになったら、他の人の集めた情報を見に行く時間をとる。

		いかかもしれないから、シンプルな方がいいと思う。	□他の人の考えと自分の考えを比べながら、さらに考えているか。【記述・発言・観察】
10	○まとめと振り返り	T：学習のポイントは何かな。 C：伝える相手や伝えたいものをよく考えて情報を集める。 T：学習をふり返りましょう。 C：〇〇さんと話し合って、集めた情報を選ぶことができた。最初は必要だと思っていた情報があったけれど、△△チームの話を聞いて、なくてもよさそうだと気付けた。	◇時間があれば、まとめを読んで交流する。

(4) 評価

B（概ね満足できる）

- ◆必要な情報を収集し、友達と関わり合いながら、伝える相手を意識して情報を取捨選択している。（思考・判断・表現）

A（大変満足できる）

- ◆必要な情報を収集し、友達と関わり合いながら、伝える相手を意識して根拠をもって情報を取捨選択している。（思考・判断・表現）

6 実践をふり返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

- ① 教材を活用して、説得力のある解説文の作り方を学ぶ（第1～2次）

まず、単元で身に付けたい力や単元のゴールを知った。その後、「『鳥獣戯画』を読む」から分かる「伝える工夫」を見付けた。

1次と2次1時間目は一斉授業で単元の方向性や教材の概要をつかみ、2次2時間目、3時間目はそれぞれが立てた問いに対して自由進度学習で取り組んだ。4時間目は、前時までに個々で得た学びをもとに全体でまとめた。主に筆者の工夫を児童の言葉で集約する活動を行った。

- ② 佐渡の文化の魅力を発信する（第3～4次）

まず、佐渡の文化には何があるかを確認し、自分が伝えたい文化を選んだ。その後、伝えたい対象者に伝わるよう、情報を取捨選択し、自分で選択した表現方法で魅力を発信した。

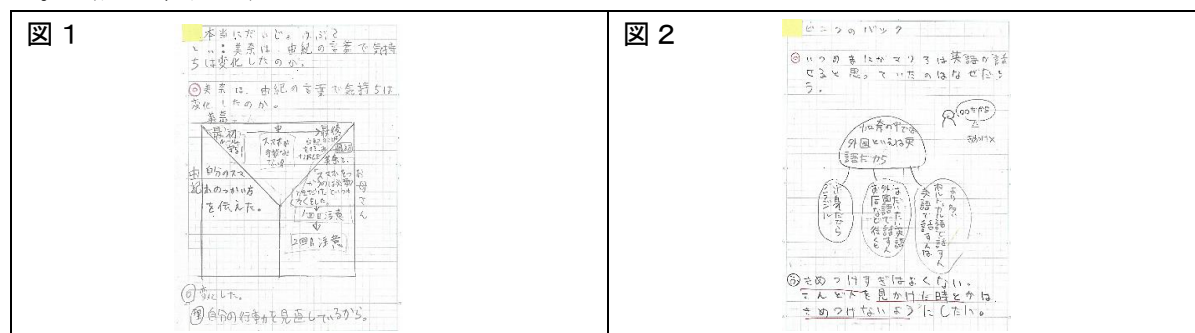
3次1時間目に、伝えたい文化と対象者、表現方法を考えた。伝えたい対象者については、「島外に住むお年寄り」「佐渡に行きたいと思っている若者」「佐渡出身で島外に暮らす社会人」など、細かく設定した。2時間目に情報を集めてポスターやパンフレットにまとめた。3時間目により伝わる表現を考えて、4時間目に完成させた。4次では完成したものを全員で見合い、お互いに感想を伝え合った。

(2) 研究テーマに関わる評価

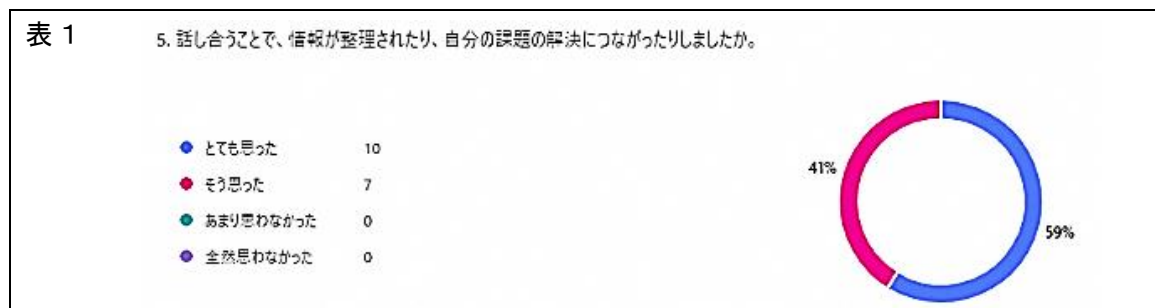
- ① 自分の回答について、理由をもって説明する児童が増えた。ノートや振り返りの記述はもちろん、ペアワークやグループワークの際に「なんでそう思うの？」「どこに書いてあっ

た？」などとお互いに質問し合う姿も見られるようになった。複数の情報の中から、自分に必要な情報を探し、活用する能力が身に付いてきたのではないかな。

思考ツールの活用については、国語の学習だけでなく、道徳などでも進んで使う様子が見られるようになった。思考ツールの活用によって考えが整理される実感が得られたと考える。（図1、図2）



- ② アンケートの「話し合うことで、情報が整理されたり、自分の課題の解決につながったりしましたか。」の項目において、評価結果は以下の通りである（表1）。



100%の児童が肯定的に回答した。この理由を問うた設問に対しては、「友達の考えを聞いたり自分の考えをすぐに話したりすることができるから。一緒に考えることでたくさんの考えが出てくる。」「鳥獣戯画の方は一人でやったけど、ポスターを作るときには何人かと見合いっこができたから。」「ほかのチームの人にも意見を聞いて、改善できたから。友達と違う課題をやってみると、新たな発見もあった。」などの回答が見られた。

(3) 今後の課題

① 「書くこと」について

本単元において、子どもたちは教材文から「伝える技法」を見付け、自身が作成する「佐渡の文化の魅力」に生かすことができた。また、より効果的に伝えるために必要な情報を選ぶ力を身に付けることができた。

一方、情報を選んで書き写すことが中心になってしまった児童もいた。本単元のゴールについては、筆者の思いが伝わるように作るべきである。調べたことを自分の言葉にして伝える必要を感じさせられるよう、手立てを講ずるべきである。

② 振り返りの蓄積・他者参照について

授業後の振り返りについては、他の教科でも毎時間行っており、児童は抵抗なく書くことができる。しかし、他者の振り返りを参照する機会はあまりなく、単元に1回程度、授業者が何人かの振り返りを紹介する程度である。

友達と協力することで、自分が思いつかなかった考えを生み出せたり自分の考えを強固にしたりする経験を積み、協働学習の良さを感じている自学級の児童である。他者の振り返りを読むことで、またさらに考えを深めることができるであろう。

Excelやスプレッドシートを活用し、オンライン上で友達の振り返りが見られるようにしたい。Excelやスプレッドシートを活用することで、振り返りの蓄積もできる。自分の学びの記録にも有効と思われる。次単元から取り入れていきたい。

<参考・引用文献>

「小学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省（2017. 7）